

# 本学事務職員初、科学研究費助成事業に採択

～社会人教育における理論と生成AIを融合した二層的DX人材育成モデルの開発と効果検証～

生成AIと理論と人材育成

三重大学 財務部財務管理子一△調達室長 池田 真樹

ikedamasaki@mie-u.ac.jp



## 科学研究費助成事業（科研費）

文部科学省と日本学術振興会による**学術研究を支援するための助成金事業**で人文学、社会科学から自然科学まで、あらゆる分野における基礎的・先駆的な**研究を幅広くサポートするもの**。

## 科研費（奨励研究）

教育・研究機関や企業等に所属する者で、**学術の振興に寄与する研究を行っている者が一人で行う研究を支援**する助成事業。

## 三重大学では初事例

研究目的のため、**事務職員が採択されることは全国的に稀であり、三重大学では初**である。

受賞者：財務部財務管理チーム 調達室長 池田 真樹（生成AI活用検証イニシアチブ 副リーダー）

## 研究の概要

**社会人の学び（リカレント教育）において、最新の生成AI技術と学術的な理論を活用することによる、新たなDX推進人材育成モデルの開発/検証**を目指しており、将来的には地域のDX人材の育成にも活用していきたい。

# DX（デジタル・トランスフォーメーション）

企業が外部エコシステム（顧客、市場）の劇的な変化に対応しつつ、内部エコシステム（組織、文化、従業員）の変革を牽引しながら、第3のプラットフォーム（クラウド、モビリティ、ビッグデータ/アナリティクス、ソーシャル技術）を利用して、新しい製品やサービス、新しいビジネスモデルを通して、ネットとリアルの両面での

**顧客エクスペリエンスの変革**を図ることで価値を創出し、競争上の優位性を確立すること。

【出典：総務省 <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r03/html/nd112210.html>】

## 生成AI

**文章、画像、プログラム等を生成**できるAIモデルにもとづくAIの総称を指す。

【出典：総務省・経済産業省 [https://www.meti.go.jp/shingikai/mono\\_info\\_service/ai\\_shakai\\_jisso/pdf/20260331\\_1.pdf](https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/ai_shakai_jisso/pdf/20260331_1.pdf)】

コンピュータがまるで人間のように、新しいものを作り出すことができる技術のことです。例えば、話を作ったり、絵を描いたり、音楽を作ったりすることができます。

【出典：総務省 [https://www.soumu.go.jp/use\\_the\\_internet\\_wisely/special/generativeai/](https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/generativeai/)】

## 本研究における主な理論

デザイン思考、ジョブ理論、メタ思考、イノベーション理論などの学術的な内容を主な対象とします。

## 研究テーマ

社会人教育における理論と生成AIを融合した二層的DX人材育成モデルの開発と効果検証

# 社会人教育における理論と生成AIを融合した二層的DX人材育成モデルの開発と効果検証

企業・公的機関等に共通の課題を「生成AI」とデザイン思考等の「理論」を通じた行動変容を研究する

## 変革を阻む「共通」の壁の特定

### 新規開発部門

新しい発想が必要なのに打破できない

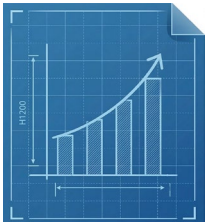
### 管理部門

正確性のために保守的になりやすい

## 企業・公的機関等に共通の課題

課題抽出/俯瞰的視点/共感/  
失敗を許容する文化の欠如/  
DX推進人材不足/採用難

.....



様々な部門をもつ大学組織  
300人規模の事務スタッフ  
を対象として実践的に検証

## 変革のための「学び/体制」



実業務、デジタルツール（生成AI等）、  
デザイン思考等の理論に基づく業務改  
革マインドセットに対する人材育成

### DX推進者



### 上司



担当者層と上司層の二層に効果的な  
理論に基づく人材育成

# 三重大学概要と自己紹介

## 三重大学

県内全域（全市町と協定）  
を教育研究フィールドと位置付け、地元企業や自治体と大学を繋ぐハブ機能として、多様な地域特性を有する5つの地域サテライトを展開



大学として、中期計画にAI・RPA活用を設定及びDX推進計画を策定し、教育・研究・医療・社会連携・**運営のDX化**を推進

三重県生まれ

三重大学・大学院生物資源学研究科修了



食品会社にて商品開発に従事



三重大学に職員として転職（現職）

学務、人事、リカレント教育、**財務調達**に従事



**デジタルツールの効果に気づく**（Forms & Power Automate、RPA、SharePoint、ExcelVBA、Google Apps Script、WordPress、生成AI等を活用）

「RPA推進室」、「業務運営DX作業部会エキスパート部会員」、「生成AI活用検証イニチアチブ」などに**兼務指示を受けて、全学的に業務運営DXを普及推進**

ツールに加え、**理論に基づく人材育成に注力**

# 研究をするに至った経緯

- 令和7年3月まで、**リカレント教育のスタッフ**として従事
- 変化の激しい時代に、**社会人の学びの重要性を実感**
- デジタルツールだけでなく、**デザイン思考等の理論に基づく業務改革マインドセットの人材育成**について活動開始
- 組織がこれからの社会に対応するため、**生成AI×社会人の学びに着目**



三重大学 リカレント教育センター

センターについて | レディーメイドプログラム | オーダーメイドプログラム | その他の教育関連機関 | FAQ

三重大学  
リカレント教育センターでは、  
お客様の課題やニーズにあわせて、  
優良なオーダーメイドリカレントプログラムを  
ご提供します。

DX・デジタル化に必要な基礎知識とスキルに加え、プロジェクト管理能力を併せ持った人材を育成します

## DX人材育成プログラム 2025

実施期間：2025年7月上旬～ | 実施形式：対面、オンライン、オンデマンド  
募集時期：2025年2月頃 | 定員：20名程度

- DX人材育成プログラム
 

受講料	実施期間	定員
20万円	7月上旬～12月中旬	20名程度
- IoT基礎講座・プログラミング入門プログラム
 

受講料	実施期間	定員
10万円	7月上旬～10月中旬	15名程度
- オンデマンド電卓プログラム
 

受講料	実施期間	定員
15万円	7月上旬～12月中旬	無制限

参考：補助金等  
可能な範囲で情報も提供します  
例：厚生労働省が実施する各自治体の補助金  
受講料の50%～75%程度など

こんな人におすすめ  
・DXを経営者経営幹部  
・業務改革の責任者  
・経営幹部候補  
・DX推進担当者  
・スキルアップしたい社員  
・高層幹部にしたい社員  
・起業を目指し方

DX人材育成プログラム講座内容 約20回の講義を含め約45時間の多彩な教育内容

教育内容	講座名	講座時間・回数	受講形態
プロジェクトマネジメント	地域イノベーション学部専修講座 プロジェクトマネジメント基礎講座 知識管理マネジメント基礎講座	90分×4回	オンデマンド
	DX経営講座	90分×1回	対面/オンライン
アータスキル	DX経営講座 データサイエンス基礎講座 データシミュレーション基礎講座 データ活用事例講座	90分×10回	オンライン/オンデマンド
	経営者 経営者 経営者	6月1日	対面/オンライン
グループワーク	成長発表会	90分×1回	対面/オンライン
	実務演習	90分×2回	オンライン

※上記の講座は、併修コース受講生専用です。併修コース受講生は、併修講座を受講する必要があります。  
※併修講座は、併修コース受講生専用です。併修コース受講生は、併修講座を受講する必要があります。

お問い合わせ：三重大学リカレント教育センター | 電話：059-231-2225 | 受付時間：平日9:00～17:00  
Web: <https://recurrent.mie-u.ac.jp/>

\*リカレント教育プラットフォームみえ\*事業

## 令和7年度 経営革新リカレント講座

～自社分析からDX・人的資本活用まで～

<講座の概要>  
・中小企業の経営者および後継者（候補）を対象に、自社の経営課題の発見から現代的な経営テーマ（DX、人的資本など）への対応、そして自社の中長期的なビジョンの構築までを体系的に学ぶ実践型リカレント教育プログラムです。  
・講義とグループ討議を組み合わせた形式で、経営に必要な知識と視点を得、実際の経営課題に取り組み方を学びます。

<学校の教育目標>  
・自社の強み・弱み、市場環境を分析し、将来ビジョンと経営課題を整理できる。  
・財務諸表や経営計画を読み解き、経営判断に活かす基礎的な会計知識を習得できる。  
・DXや人的資本経営の重要性を理解し、自社への導入・活用の方向性を検討できる。  
・社会貢献活動を経営課題と関連付けて考え、実践的なアイデアを出せる。  
・自社の経営課題に対する具体的な取り組みを発表できる。

<日程および講義内容>

日程	講座内容	場所
第1回 令和7年 10月31日(金) 13:00-16:30	講義・ 自社分析と 経営課題	プラザ演劇 (津市駅前)
第2回 令和7年 11月2日(日) 13:00-16:30	企業経営と会計	三重大学
第3回 令和7年 12月1日(日) 13:00-16:30	DX/ITを導く 上で 経営幹部の役割	三重大学
第4回 令和7年 1月15日(水) 13:00-16:30	人的資本活用の 課題	三重大学
第5回 令和7年 1月22日(水) 13:00-16:30	経営課題と 議論づくり	三重大学
第6回 令和7年 2月8日(日) 13:00-16:30	まとめと発表	プラザ演劇 (津市駅前)

対象者  
経営者および後継者（候補）  
※6回すべての受講を継続いただける方

募集人数  
12名

受講料  
12,000円  
(税込)

申込方法  
三重大学リカレント教育センターまでメールにてご連絡ください。ご希望より前向きご連絡させていただきます。

<共催>リカレント教育プラットフォームみえ  
三重大学リカレント教育センター  
<協力>経済産業省 中部経済産業局

お問合せ：三重大学リカレント教育センター  
Mail: [recurrent@ab.mie-u.ac.jp](mailto:recurrent@ab.mie-u.ac.jp)  
TEL: 059-231-2225 (受付時間：平日9:00～17:00)  
Web: <https://recurrent.mie-u.ac.jp/>

# 生成AIの特徴

これまでのRPA等のようなデジタルツールとは違い、「定型業務の自動化」から「個の能力底上げと全方位支援」へ



## 圧倒的な汎用性

「特化」から「全方位」へ

RPA等が苦手とする非定型業務にも柔軟に対応。企画・翻訳・要約・コード作成など、1つのツールであらゆる業務の質を底上げします。



## 常時AI伴走演習

「学びのアクセスを容易化」

心理的ハードルのない環境で、AIが常時アドバイザーとして伴走。納得いくまで対話を繰り返すことで、確実なスキル定着を促します。



## 個別最適な教育

「一律」から「パーソナル」へ

職員の状況に合わせ、AIが専用の学習体験や解説をリアルタイムに生成。個々の特性に応じた最適な成長を支援します。

# 背景情報

## 三重大学の事務DX推進の取組事例

三重大学

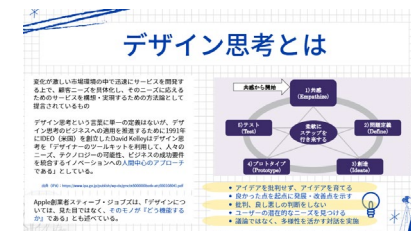
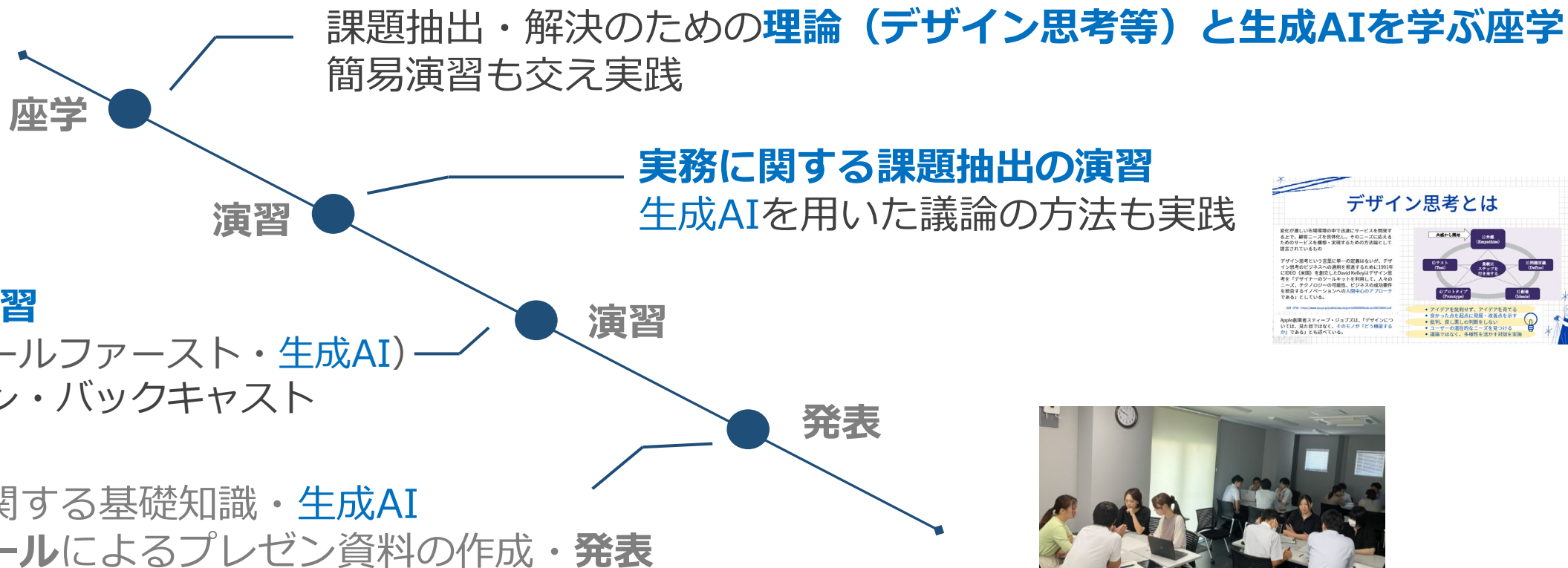
業務運営DX作業部会

生成AI活用検証イニシアチブ

(お問い合わせフォーム)

<https://www.mie-u.ac.jp/contact/index.html>

# 業務改革意欲のある者を育成すると同時に、人材発掘の意識をもつ

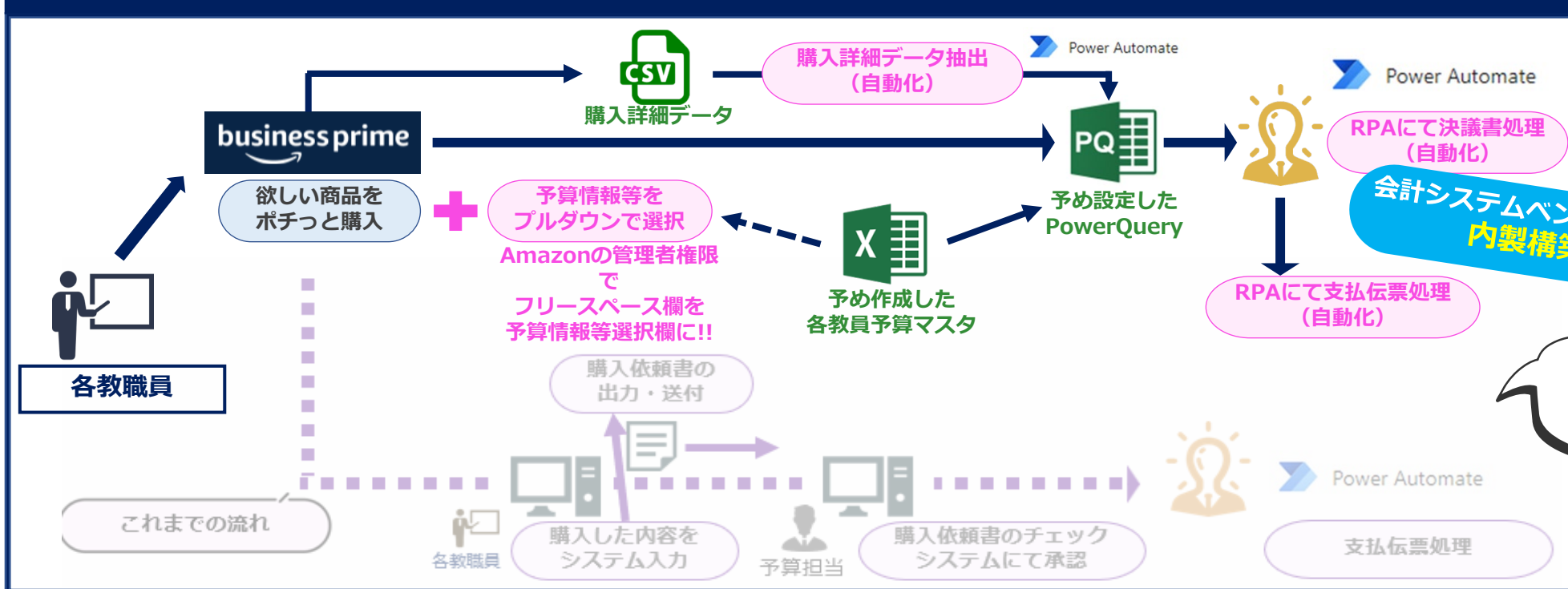


## Amazonビジネスの電子購買システムを内製化 = 教育現場の二度手間を解消

- ✓ Amazonビジネスは本来Webにて購入後、購入内容について財務会計システムへ入力する必要があった
- ✓ Amazonビジネスにある機能とデジタルツールを活用し、**電子購買システム化を内製にて実現**

令和6年度より運用開始  
購入依頼書9,000枚以上削減！  
作業時間750時間以上削減！

### Amazonビジネスの電子購買システム化の概要



Amazonビジネスで  
クリックだけ！  
会計システムベンダーのオプションだと高価だが、  
内製構築によってコストゼロ

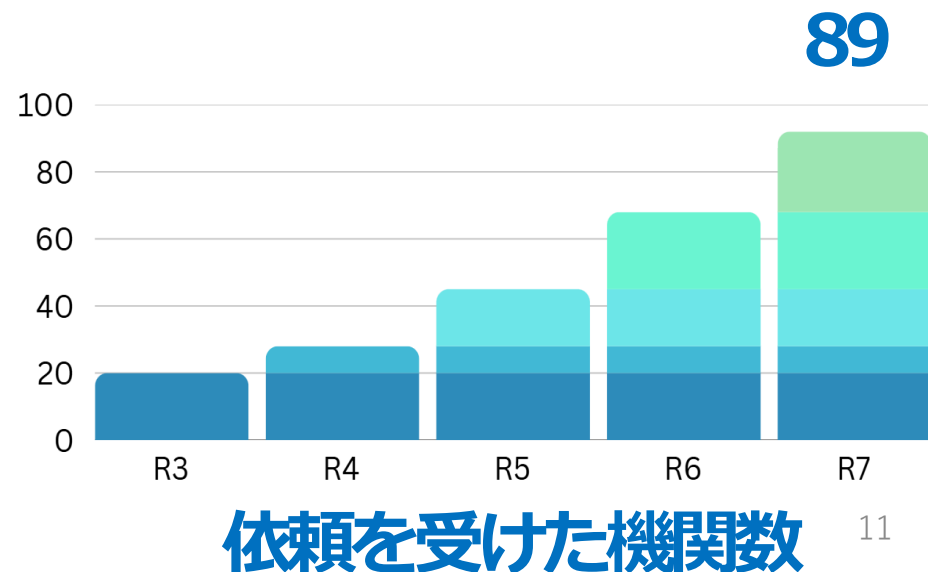
令和7年度から  
生成AIも活用

## 展開

本学内に加え、他機関へも自身が対応してきた取組を還元したい、シンポジウムを開催

73機関 400名以上の参加（別途、100名 三重大学職員）

組織的な「**改革マインド**」に触発された職員による、**新たな提案（他機関への還元）**に繋がりが、その繋がりが、自身の**組織を超えて、他機関へも波及**



# People Innovation Awards

事務局：一般社団法人日本デジタルトランスフォーメーション推進協会



チャレンジ賞受賞

## 国立大学法人三重大学

プロジェクト名：「学びの灯」の伝播と「改革マインド」の醸成から成る組織文化～自発的な提案、組織を超えた挑戦と共有～

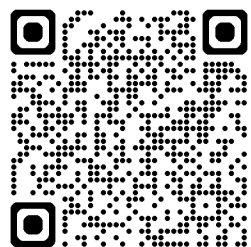
評価のポイント：財務部を起点とした現場業務の深い理解に基づき、デザイン思考や生成AIを取り入れた「業務改革マインドセット研修」を内製化。受講者が自ら講師となる「学びの好循環」を実現し、その変革の波を学内にとどまらず多数の他機関へも惜しみなく波及させている点が評価された。



生成AIを含め変化が非常に激しい時代に重要

## 変化し続ける人と組織が、 未来を創る。

AIが当たり前になる時代だからこそ、変革の主演は「人」になる。  
企業の未来を拓くのは、人の成長と、変化し続ける組織の力。  
その変革への挑戦を、社会を動かす力に変えていきます。



<https://people-innovation-awards.jp/winners.html>

# 教職協働による推進体制（生成AI活用検証イニシアチブ：GAUTI〔ゴーチ〕）

- ✓ 学長のリーダーシップにより、学長補佐（AI 推進担当）を配置
- ✓ 学長補佐の下で教員・技術職員・事務職員が職種を超えて協働
- ✓ 全職員が生成 AI と共創することを目指す（学生を含む全構成員が生成AIを保護された状態で利用可能）



## 生成AIと共創せよ ～共創により次の社会を構築～

### 学長メッセージ

我々は「生成AIと共創」する。

全てのスタッフが新たなリテラシーを身につけ、人間の創造性と生成AIの能力を融合させ、未知なる価値を創造し、その知を次世代へと繋ぐ



新たなアイデアを出しあい、**楽しみながら**生成AIの活用を検証しています。

この検証を教育・研究・医療・業務等の**大学運営に反映**させ、大学を更に発展させるとともに、**地域に貢献することを目指します。**



# 生成AI等に関する情報や取組を発信

ホームへ 生成AIとは？留意点は？ よい結果を得るには？ 生成AIへの指示（プロンプト）例 ガイドライン GAUTIIについて



生成AIの概要、各種ツール、注意点、活用するにあたって事前に把握しておくべき内容をまとめています

## 良い結果を得るには？



よい結果を得るには、生成AIへの指示（プロンプト）が重要であり、その基本的な内容をまとめています



プロンプトの事例を掲載しています（あくまで例であり、各自の利用シーンに適した内容に変更してください）

## お知らせ

「生成AIと共創に向けた学びの場」を開催しました

2026年2月21日

生成AI×ナッジ理論入門、プロンプト作成入門演習を開催しました

2025年12月23日

AXIES2025にて本学の生成AI活用およびDX推進事例を発表しました

2025年12月12日

あなたは、〇〇〇専門家など〇〇〇として対応してください。

〇〇〇を出力してください。

〇〇〇の状況があり、苦慮しています。

出力は、“項目箇条書き”、“20文字程度の項目概要”、“詳細”を含む構成で、簡潔でプロフェッショナルな口調で記述してください。

## ◆生成AIの留意点

生成AIは急速に進化しているため、最新情報を随時、各ツール公式の情報を参照する必要があります。

生成AIの回答は、現時点では完璧な内容を出力するとは言えない状況であるため、生成AIが生成した回答の根拠や正確性を必ず自ら確認してください。  
「根拠や正確性を確認せずに生成AIが言うには」などの表現にて説明することや、「根拠や正確性を確認せずに生成AIが出力した内容を画面コピーなどでそのまま利用すること」等は控え、生成AIの結果とその根拠等を自身で調べた上で、自分の責任の下で情報を活用することが重要です。

生成AIは急速に進化しているため、常に最新の公式情報を参照し、得られた結果に対しては利用者自身が責任を持って活用することが求められます。



### 正確性の確認と責任

AIの回答は現時点で完璧ではありません。出力内容の根拠や正確性を必ず自ら確認してください。「AIが言うには」といった癖香みの説明や、無検証の画面コピー利用は控え、自らの責任下で情報を活用してください。



### 情報漏洩防止と設定

入力内容が学習に利用されないよう、各自で設定が必要です。  
● 本学アカウント（Google/MS）は初期設定済み。  
● ChatGPTは各自で「AI学習をオフ」にする設定が必須です。



### 多角的な検証と探究

ツールやモデルにより出力が大きく異なります。最新モデルや複数のAIツールで検証を行うとともに、深い推論を提供する機能（DeepResearch等）を活用し、情報の質を高める工夫をお奨めします。

凡例

役割

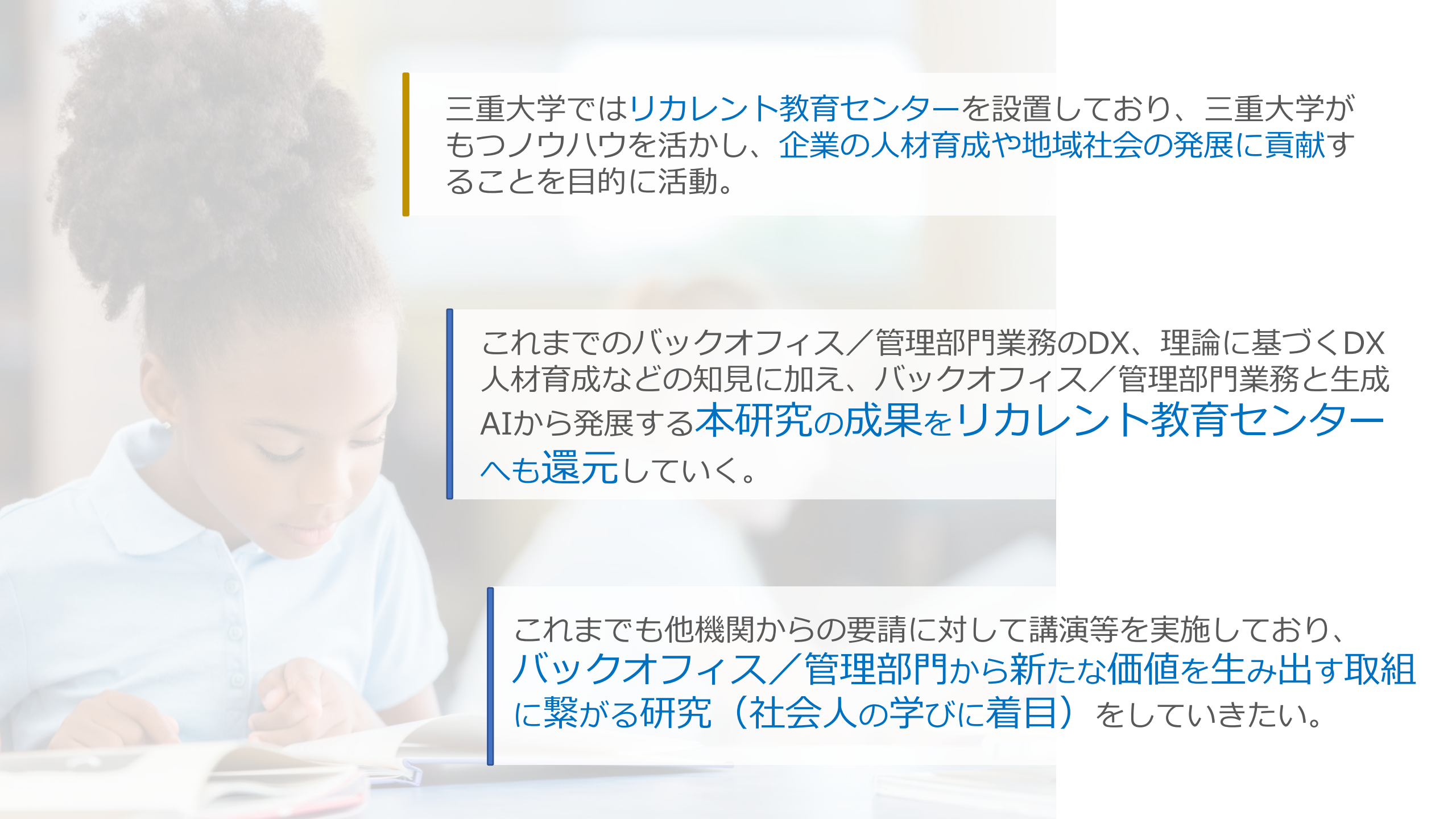
指示

目的・背景

出力形式



<https://wps.cc.mie-u.ac.jp/gauti/>



三重大学ではリカレント教育センターを設置しており、三重大学がもつノウハウを活かし、企業の人材育成や地域社会の発展に貢献することを目的に活動。

これまでのバックオフィス／管理部門業務のDX、理論に基づくDX人材育成などの知見に加え、バックオフィス／管理部門業務と生成AIから発展する本研究の成果をリカレント教育センターへも還元していく。

これまでも他機関からの要請に対して講演等を実施しており、バックオフィス／管理部門から新たな価値を生み出す取組に繋がる研究（社会人の学びに着目）をしていきたい。